

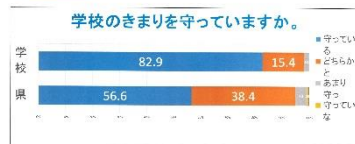
1 研究主題

**未来をみつめ、自己の生き方を主体的に選択できる生徒の育成  
～未来・地域・なかまを拓く～**

2 研究主題設定の理由

令和2年度香川県学習状況調査、生徒質問紙の中の「学校のきまりを守っていますか」という問については82.9%の生徒が守っているという肯定的な回答をした一方、「将来の夢や目標をもっていますか」という質問についてははっきりと持っていると思われた生徒は28.2%だった。また校内で教職員を対象に実施したアンケート結果から以下のような意見が多く見られた。

生徒の実態 令和2年度香川県学習状況調査の分析(生徒質問紙)



生徒の実態 令和2年度香川県学習状況調査の分析(生徒質問紙)



- ①教師主体で動くことが多く、生徒が指示を待つだけで主体的に行動できる生徒が少ない。
- ②素直で教員の指示を聞いて動くことができているが、自分で考えて動いたり新しい発想を出したりする力は十分でない。
- ③人間関係が幼い頃から固定化されているため、よりよい人間関係を形成しようという気持ちがあまり感じられない。

以上のことから自らの将来を主体的に考え、校内や地域の方々と協力しながら行動できる生徒の育成を目指し、上記の研究主題を作成した。

3 研究の方法・具体

(1) 3つのプロジェクトの構成

教育活動を『未来を拓く』『地域を拓く』『なかまと拓く』の3つのプロジェクトに分け、それぞれの分野で研究をしていくことにした。

研究内容及び方法	研究プロジェクト
<b>未来を拓く(自己理解・自己管理能力・キャリアプランニング能力)</b> ・自己の在り方・生き方をみつめ、よりよく生きようとする。 ・自分のよさや個性を確信し、よりよい選択をする。	
<b>地域を拓く(社会形成能力・課題対応能力)</b> ・多様な他者の考えや立場を理解する。 ・自分の役割を果たし、他者と協力する。 ・地域・社会の持つ課題を発見・解決しようとする。	
<b>なかまと拓く(人間関係能力・課題対応能力)</b> ・よりよい生活を目指して自ら課題を見いだす。 ・課題解決に向けて主体的に行動しようとする。 ・合意形成を図ったり、意思決定をしたりして課題を解決する。	

(2) 生徒・教職員へのアンケートの実施

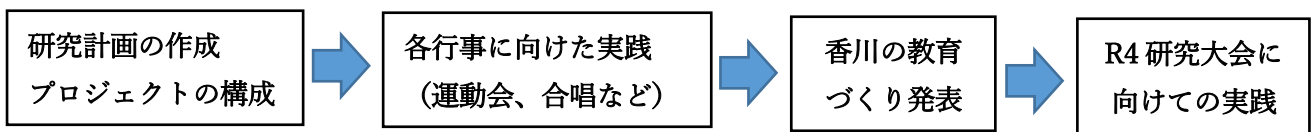
- ・各学期、行事ごとに実施する。
- ・アンケートごとの変容をみて、今後の教育活動につなげる。

(3) 各教科全般を用いた教育活動の実施

- ・各教科において課題解決能力の育成を目的とした授業の実施

(4) 見通しをもった研究体制づくり

①令和4年度の研究発表に向けた研究体制



②校内研修

- ・プロジェクトチーフ会
- ・プロジェクト毎の打ち合わせ
- ・外部講師からの指導